



福生二中だより

No.11

令和7年3月3日発行

福生市立福生第二中学校

TEL 042(551)1970

校長 平井 貞昭

「感謝」

3月といえば、別れの月、新たな旅立ちの月…、人それぞれの思いのある月ではないでしょうか。私は、この3月を「感謝の月」と思っています。中学校は、義務教育の最後の期間です。ですから、義務教育9年間の最後の月と考え、まとめとなりますが、それより、私は、「感謝」が思い浮かびます。

生徒からすれば、

親に対して、色々迷惑を掛けたけれどここまで育ててくれて、ありがとう。

仲間に対して、困っていたとき、相談に乗ってくれて、ありがとう。

保護者からすれば、

喜怒哀楽あったけれど、ここまで育ててくれて、ありがとう。

教師からすれば、

生徒の皆に対しては、ここまで立派になってくれて、ありがとう。

保護者の皆様に対しては、教育活動に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

地域の皆様に対しては、いつも見守り、御協力をいただいて、ありがとうございます。



このように、たくさんの感謝がこの月にはあると思っています。3月は、お互いに感謝しあえる月になると素敵だと思います。

そして、毎月の学校だよりは、少しでも保護者の皆様のお役に立てればという視点で書かせていただいた月がありました。夏号では「子供の発するサイン」、10月号では「首肯する」、11月号では「今やろうと思ったのに…」、12月号では「伝え方」、1月号では「子供のこと知っていますか?」、2月号では「1.01の法則」です。毎月の学校だよりをお読みいただきまして誠にありがとうございました。これまでの学校だよりは、HPにもアップしておりますので、いつでも御覧いただけます。

最後になりますが、保護者の皆様及び地域の皆様におかれましては、今年度の本校の教育活動に御理解、御支援を賜りましたこと、厚く御礼を申し上げます。来年度も本校職員が一丸となり、よりよい学校を目指して改善・充実を図って参ります。今後とも御支援の程、よろしくお願いいたします。

保護者の皆様と本校生徒に御協力いただきました「学校評価アンケート」の結果がまとまりました。御協力ありがとうございました。本アンケートの結果を踏まえ、来年度の教育活動の改善・充実を図ってまいります。下記 URL より御覧いただきますようよろしくお願いいたします。

<https://fussa-2i.hs.fussa.school/wvsiwvg/file/download/1/337>

各学年の取組 ～魅力ある学校づくりに向けて～

第1学年

第1学年では、2月14日(金)に弁護士の方を学校にお招きし、法教育を行いました。実際に起こった事件を交えながら話をさせていただきました。学校や身近な生活におけるいじめ問題を未然に防ぎ、自他ともに大切にしなければいけないことを学びました。第1学年生徒会の司会、お礼の言葉も立派でした。2月20日(木)には、百人一首大会を本校体育館で行いました。日本の伝統文化に触れ、その良さを感じ、一生懸命に楽しむことができました。また、国語係中心に大会を盛り上げ、役割をしっかりと果たしていました。多くの学年行事で多くの生徒が司会や運営を生徒主体で行っています。今後も活躍する姿を楽しみにしています。



第2学年

理科の小テストに向けて「助け合い学習」を行いました。理科で学習している分野「電流・電圧、磁界」はとても難しい内容です。学年末考査に向けて小テストがあるとのこと。授業では分かっていても、ひとりで問題に向かってみると悩んでしまうという不安のある生徒のために、補習教室を開催しました。この補習教室は教えてくれる先生役の人も参加してもらっています。だから「助け合い学習」です。3日間で、参加者は延べ22人でした。3年生になる日も近いです。初回の助け合い学習は小さな輪でしたが、さまざまな内容で助け合いが広がっていくことを期待しています。



第3学年

2月17日(月)に明治安田生命相互会社の方を講師にお招きして「金融学習教室」を行いました。2022年4月から、成人年齢が18歳に変わり、高校生でも大人として扱われ、一人で有効な契約を締結できる時代となったので、その予備知識として学習しました。以下はその概要です。

- ① 「契約はいつ成立するのか」
- ② 「お金はどうやって動いているのか」
- ③ 生活にかかる費用(4人家族の1ヶ月の生活費)を考える
- ④ 人生でかかる費用は一体どのくらいか
- ⑤ 生活に必要なお金は、どうやって手に入れるのか
- ⑥ 万が一に備えるために必要なこと



人権課題講演会

2月8日(土)、語り部として、被爆体験の伝承活動を行っている迫田勲様をお迎えして、人権課題講演会を実施いたしました。迫田さんは、広島からお越しいただき、御自分が体験された貴重な話を生徒に聴かせてくれました。生徒も、真剣に迫田さんの話に耳を傾けていました。

迫田さんは、「平和は当たり前にあるものではない。平和はつくるもの」、そしてそのためには、「人を大切にする。人を想うこと」とおっしゃられていました。そして、平和で安心して暮らせる世界をつくるのは、君たち若い力が必要であるとおっしゃられていました。講演後の生徒の感想をいくつか紹介させていただきます。



- ・広島原爆には前から興味がありました。いつか現地に行って資料館で原爆のことをさらに学びたいと思いました。今回の講演で戦争はとても怖いし二度と起きてほしくないと思いました。
- ・核爆弾で、長崎、広島、合わせて20万人以上が亡くなったと思うと恐ろしいし、You Tubeとかで見るよりやはり聞いたほうが、戦争や核の恐ろしさが身に沁みました。今ある平和に感謝して生きようと思いました。
- ・原爆は恐ろしいものだ改めて感じた。そして、このことを次の世代に語り続けていくのが大切だと思った。
- ・私たちは、戦争を経験したことがないけれど、今日の講演を聞き、戦争の怖さや平和のありがたさを学びました。私たちが大人になった時は平和をこのままつづけていきたいと思いました。

ゴールボール教室

第1学年は、2月6日(木)、パラリンピックメダリストの浦田理恵さんと日本代表ヘッドコーチの工藤力也さんをお招きし、ゴールボールの体験を行いました。浦田理恵選手は、2012年ロンドンパラリンピックで金メダル、2021年東京パラリンピックで銅メダルを獲得しています。彼女は、音のした場所と自分との距離を正確にとらえる能力に長けており、講演を聞いていた生徒がたたいた手の音から、自分との距離を瞬時に把握し、そこまでの距離を見事に言い当てたとき、生徒が思わず、「おー!」と叫んでいました。ゴールボールは、ボールの中の鈴の音を頼りに行う競技で、静まり返った環境で生徒は、ゴールボールを楽しんでいました。浦田理恵選手は、この競技に大切なことは、「思いやり」とおっしゃっていました。

今回の体験授業を通して、生徒一人一人に人権意識が醸成されることを期待しています。



【二中学生の活躍】

○第8ブロック冬季剣道大会

第5位 2年 三枝 涼平

○明るい選挙啓発ポスターコンクール 入選

2年 坂本 環奈 2年 平田 怜花 2年 植木 瑚音

2年 山崎 佳歩 2年 篠田 百祝 2年 田中 麗心

2年 坪井 あいか 2年 北地 粋

